



富士見市長 星野 光弘氏

市長のメッセージ

富士見市は、都心から30km圏内で、歴史・産業・文化・地理的条件に恵まれた特性を活かし、都会と豊かな自然が調和した住みよいまちです。

そして、本市は、市制施行50周年の節目を越え、行政・文化・産業機能を有する「シティゾーン」における新たな活力の創出、恵まれた自然環境を生かした「ふるさと富士見」の創出、また、ライフステージに合わせた切れ目のない子育て支援と、フレイル予防事業をはじめとする健康長寿の取り組み等により、「住みたい・住み続けたい・選ばれるまち」として着実な成長を遂げています。

今後も、さらに、市の新たな価値や魅力を創造することで、持続可能なまちを、そして未来につながる富士見市を創り上げてまいります。

はじめに

富士見市は埼玉県の南東部、首都30km圏に位置し、北は川越市、東は荒川を境にしてさいたま市、南は志木市、西はふじみ野市、三芳町に接している。市内には荒川、新河岸川、柳瀬川が流れる。市名のとおり、美しい富士山を望むことができる。

東武東上線が南北に走っており、市内にみずほ台、鶴瀬、ふじみ野の各駅がある。東武東上線と東京メトロは直通運転をしており、新宿、渋谷、新木場、横浜方面へ乗り換えなしで行くことができる。道路は国道254号バイパスと国道463号浦和所沢バイパスが通っており、居住面、産業面ともに交通利便性に優れている。

1956年鶴瀬村、南畑村、水谷村の3村が合併し富士見村が発足。1964年に町制施行し、1972年の市制施行により富士見市が発足した。

東武東上線の3駅周辺には日常の買い物で使う商店が集中しているほか、市役所の近くには大型ショッピングセンターがあり、生活利便性が高い一方、自然を生かした公園も多いことから、住みやすく、子育ての環境としても優れている。

☀ ゼロカーボンシティの実現に向けて

近年、世界規模で地球温暖化による問題が深刻化するなか、市では温室効果ガスの削減に向けた各種取り組みを市民・事業者・行政の協働により進めている。豊かな自然と持続可能な社会を次世代に引き継ぐため、2050年までに二酸化炭素排出量を実質

ゼロにすることを目指し、2022年4月、市制施行50周年記念式典にて「ゼロカーボンシティ宣言」を行った。排出量実質ゼロとは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、森林等による吸収量を差し引いて合計を実質ゼロとすることを意味している。具体的な取り組みとして、再生可能エネルギー機器等の設置奨励補助、次世代自動車の購入促進補助、緑地の保全、壁面緑化などを推進している。

また、森林等による温室効果ガスの吸収について、昨年8月にときがわ町と協定を締結した。同町が所有する森林を整備することにより、森林の保全及び地球温暖化対策の推進と、相互の交流の促進を図ることを目的としている。協定に基づき、ときがわ町が行う森林整備事業に係る費用を負担することで、整備した森林の二酸化炭素吸収量を市から排出される二酸化炭素量と相殺するカーボンオフセット事業を実施した。また、森林整備地から伐採した木材を使用したベンチを購入することとしている。



富士見・ときがわ交流の森

富士見市概要

人口(2025年4月30日現在)	113,550人
世帯数(同上)	56,465世帯
平均年齢(2025年1月1日現在)	46.1歳
面積	19.77km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	75所
製造品出荷額等(同上)	213.4億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	591店
商品販売額(同上)	1,150.3億円
公共下水道普及率	98.9%
舗装率	78.6%

資料:「令和6年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 東武東上線 みずほ台駅、鶴瀬駅、ふじみ野駅
- 関越自動車道 所沢ICから市役所まで約9km

🌟「SDGs未来都市」に選定

富士見市は、内閣府の2024年度「SDGs未来都市」に選定された。「みんなが活躍できる価値共創型都市～充実した日々の実現に向けて～」をテーマに、地域資源を活かした取り組みを進める提案を行い、子や孫など次世代へのバトンタッチを意識し、自らの歩みで「充実した日々」を送ることができる未来を目指すことが、SDGsが掲げる「だれひとり取り残さない」持続可能な社会の実現と方向性が同じとして評価された。

取り組みの展開として、3つのイメージを掲げている。「地域経済の活性化」として女性が社会の最前線で活躍できるまち、「市民総活躍」として子ども・若者が夢にチャレンジできるまち、「脱炭素社会の構築」として自然に寄り添うライフスタイル（脱カーボン）である。政策推進においては、「社会」、「経済」、「環境」の3つの要素のバランスをとるとともに、SDGsの目標達成に貢献するものとしている。



びん沼自然公園の展望台・複合遊具

🌟多彩な公園

富士見市には多彩な公園が多く、豊かな自然や歴史を身近なものとして生活に彩りを与え、恵まれた子育て環境の大きな要素となっている。

2023年4月に「びん沼自然公園」がリニューアルオープンした。「びん沼自然公園」は市の北東、荒川の近くにあり、野鳥や昆虫などの自然観察が楽しめるほか、県内最大級のパークゴルフ場、キャンプ場、バーベキュー場、富士山を望める展望台、複合遊具などがあり、自然の中で一日中レジャーを楽しめる。また、キッチンカーやワークショップ、ドッグランなど子どもから大人まで楽しめる「びんぬマルシェ」などのイベントも充実している。

市のほぼ中央には「山崎公園」がある。「せせらぎ菖蒲園」の愛称で親しまれ、6月の花菖蒲の見ごろの時期には多くの人を訪れる。春から秋にかけてさまざまな花が彩り、滝から流れるせせらぎや徒渉池（浅い歩ける池）で水遊びもできるなど、世代を問わず楽しめる憩いの場となっている。

国の史跡に指定され縄文時代前期を代表する貝塚がある「水子貝塚公園」は、遺跡保存と広い空間を活かして公園整備を行い、当時のムラや生活の様子を再現している。埼玉県旧跡に指定されている中世の難波田^{なんばた}氏の城館跡を整備した「難波田城公園」は、難波田城資料館のほか、難波田城の姿を復元したゾーンと、古民家を移築復元したゾーンがある。両公園は歴史学習においても貴重な場となっている。（吉嶺暢嗣）